

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

1 目指す学校像

- ① 「『知 (virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校
- ② 自己を自律し、主体的に行動し、何事にも挑戦し、創造する学校
- ③ 誰にも公平に接し、豊かな心のふれあいができる学校

2 1を踏まえた教育目標

- ① 豊かな人間性の涵養
* 「人の役に立ちたい」と考える生徒の育成（ボランティア精神の涵養）
* 人を差別しない生徒の育成（国際理解教育の推進）
- ② 身体能力を活かした社会貢献
* 身体能力を活かして社会に貢献できる生徒の育成（競技力の向上及びスポーツの普及への貢献）

各学校で定める目標と育成する資質・能力

(1) 知識及び技能

- ・ 自己啓発能力
- ・ 国際理解力
- ・ 自己指導能力

(2) 思考力、判断力、表現力等

- ・ 自らの学びを振り返る力
- ・ 自ら課題を見だし、粘り強く取り組む力

(3) 学びに向かう力、人間性等

- ・ 進路希望実現に向けて努力し続ける力
- ・ ボランティア精神

総合的な探究の時間の学習評価

評価基準： 個人内評価と観点別学習状況を重視

評価方法：

(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等

- * プレゼンテーションやポスター発表等の表現による評価
- * ポートフォリオによる評価（調査・観察記録、体験活動レポート、感想文、等）

(3) 学びに向かう力、人間性等

- * 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価

生徒の実態

学習意欲や授業への取組に大きな差がある。
授業に対して受け身の姿勢が見られる。

生徒の発達をどのように支援するか ○配慮を必要とする生徒への指導

個に応じたきめ細かな指導をする。
保護者等との連携や教職員間の情報共有に努め、協働して指導する。

目指す生徒の姿

主体的に学ぶ姿勢が身に付いている。
他者と協働して問題を解決しようとしている。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

第1学年：生徒の興味・関心に基づく課題

- (1) **知識及び技能：** 興味・関心のある事柄について、自分の意見を文章化したり、聞き手に伝わり易くなるよう工夫して発表したりする技能を身につけさせる。
- (2) **思考力、判断力、表現力等：** 自ら学び考える力と、それを伝えるコミュニケーション能力を育成する。
- (3) **学びに向かう力、人間性等：** 多様な分野にわたる教材を設定し、学びの幅を広げる。

第2学年：現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題

- (1) **知識及び技能：** 現代社会の諸課題について、自分の意見を他者の意見を交えて文章化したり、説得力を持つよう論理的に述べたりする技能を身につけさせる。
- (2) **思考力、判断力、表現力等：** 自ら学び考える力と、他者の意見と比較して、それを伝えるコミュニケーション能力を育成する。
- (3) **学びに向かう力、人間性等：** 多様な分野を横断する教材を設定し、学びの奥を深める。

3学年：職業や自己の進路に関する課題

- (1) **知識及び技能：** 社会貢献や社会的責任について、自分の意見を抽象的に文章化したり、解決・合意を目指して討議したりする技能を身につけさせる。
- (2) **思考力、判断力、表現力等：** 自ら学び考える力の育成と、他者の立場・意見にも配慮して、それを伝えるコミュニケーション能力を育成する。
- (3) **学びに向かう力、人間性等：** 人間的成熟を促す教材を設定し、学びを自己実現に繋げる。

学習活動、指導方法等

第1学年

実社会や実生活の中で、観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりすることのできる具体的な教材を使用する。

- * 奉仕活動・文化交流等の体験活動は以下の手順で進める。

① 事前学習として、調査・討議等（課題設定・情報収集）

② 体験活動

③ 事後学習として、レポート作成（整理・分析）、研究発表・感想文作成（まとめ・表現）

第2学年

生徒の学習活動が豊かに広がり、発展していく教材を使用する。

- * 修学旅行等の体験活動は第1学年と同様の手順で進める。

第3学年

実社会や実生活と自己の関わりについて、多面的・多角的に考えることができる教材を使用する。

- * 進路別学習等の体験活動は第1学年と同様の手順で進める。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- 1 生徒理解を深め、教職員の生徒指導体制を再認識することで、安心・安全な教育環境を整備する。
- 2 「総合的な探究の時間」の授業改善を目指した校内研修の充実や、近隣中学校の授業参観を推進する。
- 3 保護者や地域と連携し、生命や人権を尊重する心を育む。
- 4 学校HPによる広報活動を推進し、学校公開・学校説明会を充実させ、「総合的な探究の時間」の学習内容への理解を家庭・地域に促す。